

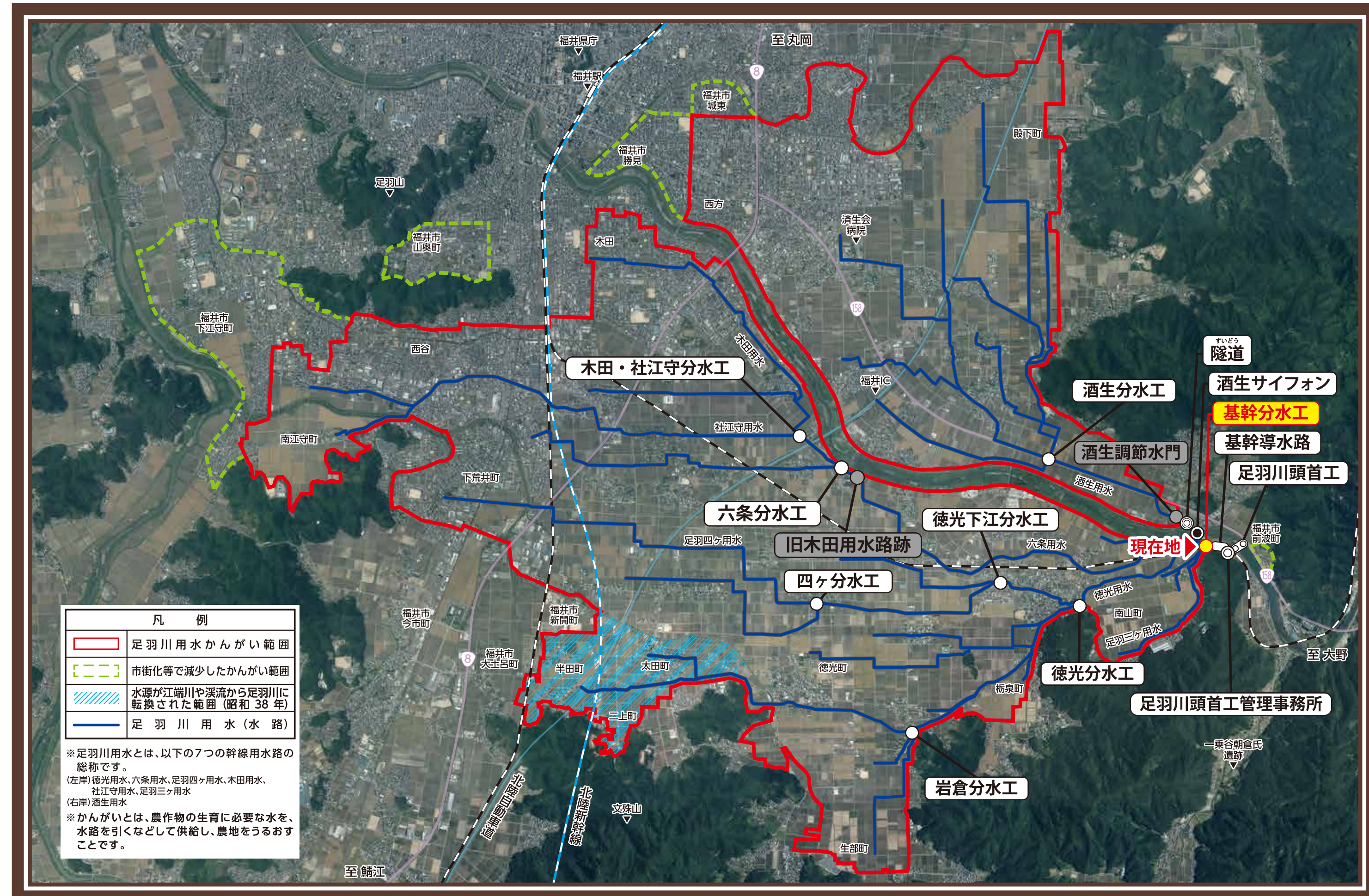
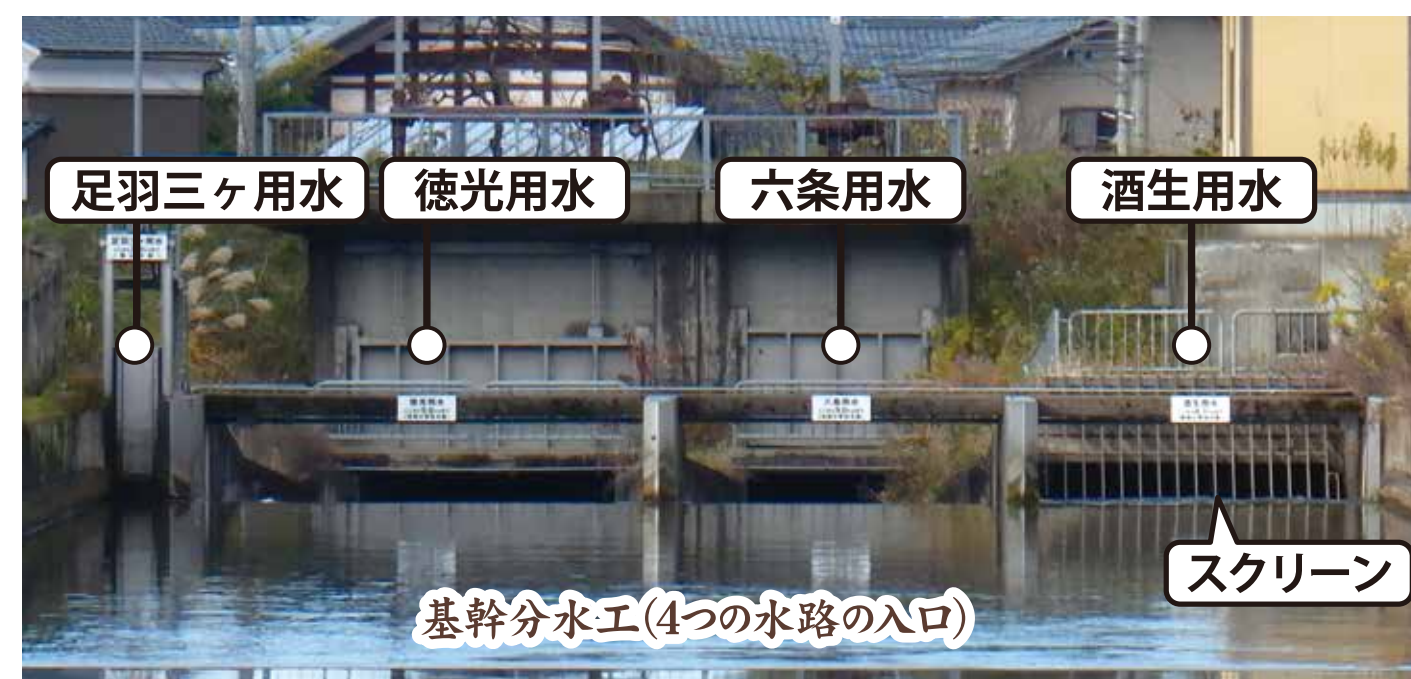
# 基幹分水工

基幹分水工は、足羽川頭首工上流の左岸側にある取水ゲートから取り入れた用水を、福井平野の約2,000haの農地に分水するための、根幹をなす施設です。現在の施設は、県営かんがい排水事業 足羽地区（昭和55年から平成6年）および県営基幹水利施設補修事業 足羽川地区（平成7年から平成9年）で整備されたものです。

本分水工は、足羽川頭首工から0.3kmの地点にあり、足羽川から取水された用水が基幹導水路を通り、この場所ではじめて4つの水路に分かれ、約2,000haの農地に必要な用水を届けています。

酒生用水のみ、この場所から足羽川の底に設置された管路（サイフォン）を通して対岸（右岸側）に用水が運ばれています。地中の管の中に草木などの流木やゴミが入ると取り除くことが出来ないため、水路の入口にゴミを集めて撤去するためのスクリーン（鉄の柵）が設置されています。

基幹分水工で4つの水路に分水(写真:左から順)				
項目	足羽三ヶ用水	徳光用水	六条用水	酒生用水
用水の到達点	福井市南山町	福井市下荒井町	福井市南江守町	福井市殿下町
水路延長	約2.0km	約9.8km	約12.0km	約4.7km
かんがい面積	約82ha	約860ha	約440ha	約600ha



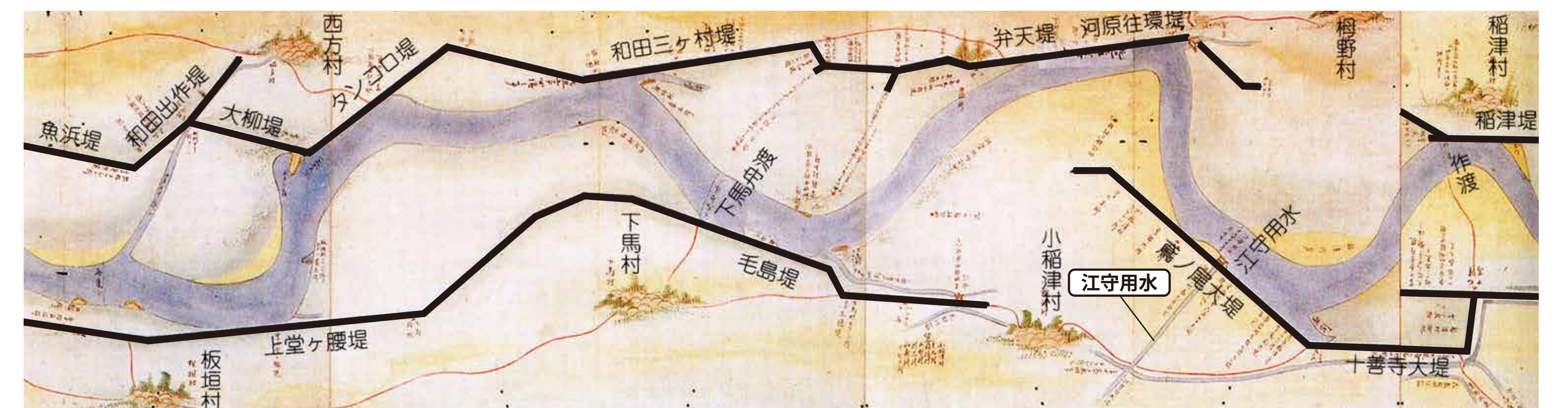
## 【足羽川用水とは】

足羽川用水は、福井市南東部にある足羽川頭首工より取水し、約2,000haの広大な農地をかんがいの幹線用水路の総称で、7つの幹線用水74kmからなります。

用水の始まりは、奈良時代(7世紀頃)に開かれた荘園内の原始的な水路であると云われ、足羽川から直接、各用水を取水し、渇水期は絶えず水争いが続いていました。しかし、江戸時代(1710年頃)になると、用水奉行 戸田弥次兵衛公により、複数の用水を統合する当時としては珍しい合口のための堰の設置や、水路の分水地点に定石を布設し水争いを緩和するなど、現在の足羽川用水の礎を築いたと云われています。



また、江戸時代末期の状況を伝える「足羽川之図」には、福井城下を洪水から守るための連続堤や三角又などの水制、農業用水を取り入れるための堰堤も多く見られることから、足羽川は、藩政時代からすでに人工河川化が進展するとともに、かんがい用の水源としても重要な役割を果たしていたと云えます。



## 【世界かんがい施設遺産に登録(県内初)】

平成28年11月8日に県内で初めて、足羽川用水が「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

**世界かんがい施設遺産とは**

かんがいの歴史・発展を明らかにし、施設の適切な保全につなげるため、国際かんがい排水委員会(ICID)が平成26年に創設した制度です。

登録要件(一例)	建設から100年以上経過した施設のうち、卓越した技術により建設されたもの。かんがい農業の発展に貢献したもの。
----------	--



※足羽川頭首工管理事務所前にある大型看板では、詳しい内容を説明しております。